

# 2022 第 53 回 県記録会 競技注意事項

## 1 競技規則について

本大会は、2022年度（財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により実施する。

## 2 練習について

練習は競技役員の指示に従って実施すること。特に投てき練習については、監督の付き添いのもと、危険防止に努めること。

メインスタンド下の雨天走路は走幅跳・三段跳の待機場所として使用するため、使用禁止とする。

バックスタンド下の走路は練習場所として解放するが、混雑時は注意して使用すること。テント・シートの設置等、待機場所としての使用は禁止とする。

## 3 招集について

(1)トラック競技の招集所は100mスタート地点の器具庫付近に設ける。フィールド競技の招集は全て現地とするが、必ず招集所を通過して競技場内に入ること。

(2)各種目の招集時刻は、以下の通りとする。密を避けるため、招集時刻の5分以上前に来ることは、禁止とする。なるべく時間に合わせ、遅れずに集合すること。

1500m・5000m 以外のトラック競技	1～3組	競技開始15分前
	4～6組	競技開始5分前
	7～9組	競技開始5分後
	10～12組	競技開始15分後
	13～16組	競技開始25分後
1500m	1～2組	競技開始15分前
	3～4組	競技開始時刻
	5～6組	競技開始15分後
5000m	1組	競技開始15分前
	2組	競技開始5分後
4×100mR	1組	競技開始20分前
	2組	競技開始15分前
	3組	競技開始10分前
フィールド競技	全種目	競技開始40分前

(3)招集の方法については次の通りである。

- ①招集時刻に招集所で競技者系の点呼を受ける。その際アスリートビブス・スパイク・商標の点検を受ける。トラック競技のみレーンナンバーカードを受け取る。
- ②招集は必ず本人が行うこと。但し、出場する競技の時間が重なる場合には、必ず「二種目同時出場届出用紙」を招集所に提出し、当該競技の審判にもその旨を申し出て、指示に従うこと。
- ③全ての競技種目において、棄権する場合は招集所に棄権届を提出する。
- ④招集時刻に遅れた競技者は、棄権とみなし処理する。

#### 4 競技の抽選及び番組編成について(レーン順・試技順)

- (1) トラック競技の予選のレーン順、フィールド競技試技順は、プログラム記載番号順とする。
- (2) トラック競技の決勝のレーン順は、番組編成板に掲示する。
- (3) 決勝に進む選手をタイムで決定する場合、同記録があってレーン数が不足するときは、同記録者の判定写真を拡大し、細部まで読み取り、着差の判定をする。それでも判定できない場合は抽選を行う。

#### 5 競技について

- (1) トラック競技について
  - ① 短距離種目では、競技者の安全のためフィニッシュライン通過後も自分のレーン(曲走路)を走る。
  - ② 100m・100mH・110mH以外のトラック種目のゴール後は、そのまま左回りで競技場内の走路とスタンドの間を歩き、所定のゲートより退場すること。この時、同じ組の選手たちと1～2mの距離を空けて縦に並んで歩き、会話や接触等がないようにすること。
- (2) フィールド競技について
  - ① 競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従う。
  - ② 砲丸投を除く投てき競技の計測は、すべて光波測定器を使用する。
  - ③ 携帯電話等、競技規則144条3(b)に関わる機器は競技場内に持ち込むことはできない。
  - ④ ハンマー投はJITスタジアムのAゾーンにて競技を行う。練習は球技場を使用すること。
  - ⑤ 各フィールド競技種目の競技開始後は、原則としてその競技場所は変更しない。  
ただし、棒高跳については天候により審判長が危険と判断した場合は競技場所の変更や競技日の延期をする場合がある。
  - ⑥ 男女走幅跳については参加人数が多いため、感染症対策上の理由により試技は2回とし、その後トップ8の試技を2回行う。
  - ⑦ 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は、優勝者が決まるまで次の通りとする。ただし、当日の気象状況により変更する場合がある。

種目	練習	1	2	3	4	・・・	—	以降の上げ方
男子 走高跳	1m55	1m60	1m65	1m70	1m75	・・・	1m95	1m95 以降は優勝者が決まるまで3cmずつ上げる。
女子 走高跳	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	・・・	1m55	1m55 以降は勝者が決まるまで3cmずつ上げる。
男子 棒高跳	2m20	2m20	2m40	2m60	2m80	・・・	3m40	3m40 以降は優勝者が決まるまで10cmずつ上げる。
女子 棒高跳	2m00	2m00	2m10	2m20	2m30	・・・	3m40	3m40 以降も優勝者が決まるまで10cmずつ上げる。

## 6 競技用具について

(1) 競技に使用する用器具は、棒高跳用ポール以外はすべて主催者が用意したものを使用しなければならない。

(2) ハードルの高さおよびインターバルは、次の通りである。

		一般	中学
男子110mH	高さ	1.067m	0.914m
	インターバル	9.14m	9.14m

		一般	中学
女子100mH	高さ	0.838m	0.762m
	インターバル	8.50m	8.00m

(3) 投てき物の重量は、次の通りである。

	一般男子	高校男子	一般高校女子
砲丸	7.26kg	6.0kg	4.0kg
円盤	2.0kg	1.75kg	1.0kg
ハンマー	7.26kg	6.0kg	4.0kg

## 7 抗議・上訴について

- (1) 競技中に起きた競技者の行為・順位に関する抗議は、競技規則146条により、結果の正式発表後、30分以内に、また次のラウンドが行われる種目については15分以内に、本人又は監督から審判長に対して口頭で申し出る。受付は大会本部とする。
- (2) 審判長の裁定に不服がある場合は、30分以内（次のラウンドが行われる種目については15分以内に、担当総務員を通して、上訴審判員に預託金10,000円を添えて文書で上告する。この預託金は、抗議が却下された場合は、返却しない。「上訴申立書」は、担当総務員が準備する。

## 8 競技用靴について

スパイクピンの長さは9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。いずれの場合も本数は11本以内とし、先端が鋭利なものは使用できない。

厚底シューズに関する規程については以下のとおりである。

種目	最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (除：三段跳)	20mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
トラック種目 (ハードル種目を含み、800m未満の種目)	20mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック種目 (障害物競走を含み、800m以上の種目)	25mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。 競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。(40mm)

## 9 一般的注意事項

- (1) リレーオーダー用紙は招集所にて配布し、招集所を提出場所とする。
- (2) 商標の大きさについては、競技規則「競技会における広告及び展示物に関する規程」を適用する。
  - ①上半身の衣類（シャツ・レオタード等）  
製造会社名/ロゴ：文字の高さ4cm以内、トータルのロゴの高さは5cm以内、面積30cm<sup>2</sup>以内の長方形（トレーニングウェアやTシャツは文字の高さ4cm以内、トータルのロゴの高さは5cm、面積40cm<sup>2</sup>以内の長方形）とする。表示は1ヶ所のみとする。
  - ②下半身の衣類（ソックス・ショーツ・タイツ等）  
製造会社名/ロゴ：高さ4cm以内、面積20cm<sup>2</sup>以内のもの（ソックスは高さ2.5cm以内、面積5cm<sup>2</sup>以内）を1ヶ所表示できる。
  - ③バッグ 製造会社名/ロゴ：25cm<sup>2</sup>以内のものを2ヶ所まで表示することができる。
  - ④帽子・手袋 製造会社名/ロゴ等：6cm<sup>2</sup>以内のものが1ヶ所とする。
- (3) 応急処置をする場合、その他健康上の問題が生じた場合は医務室に連絡する。競技場での疾病・傷害に対する応急処置は主催者で行うが、以後の責任は一切負わない。
- (4) 横断幕等は、スタンドの最上部のみ掲出を認める。のぼり旗等も同様とする。スタンドにテントを張ったり、シートなどを敷いて場所を取ったりすることは禁止する。
- (5) 貴重品の管理は、各自で責任を持って行う。拾得物については、TICにて保管する。
- (6) 「記録証明書」を希望する競技者は、受付に300円を添えて申し込むこと。

## 10 感染症対策について

本大会における感染症対策については山梨陸協HPに掲載しているマニュアルに基づいて行う。各所属・各個人において熟読し、ルールを守り、マナーある行動をしていただきますようお願いいたします。